

課題名 国民目線にたった国有林の利用とPRについて

日高北部森林管理署日高森林事務所 三上 祥隆
流域管理調整官 阿部 聡

1. 課題を取り上げた背景

当署の国有林は日高山脈北部の西側に位置し、幌尻岳をはじめ多くの登山客が訪れています。また、「国立日高青少年自然の家」が設置されるなど、良好な自然環境を活かして国有林をフィールドとする自然体験学習等の活動が活発に行われています。地域では観光による地域振興を模索しており、登山、森林環境教育、エコ・ツアーの場として国有林に対する期待が高まっています。

当署では、こうした期待に応えていくため国民目線にたった国有林の利用とPRが重要になってくると考え、これまでの登山者の利便性の向上や国民目線にたったイベントのPRなどの取組を進めてきましたが、今年度は、さらなる方策について検討し、次のような取組を進めています。

2. 登山者の利便性の向上

(1) 取組みの経過

昨年度は、「森林管理署の位置が分からない」という問い合わせが多くあることから、国道から森林管理署庁舎までの案内看板を設置しました。今年度も、利便性の向上ため申請者にアンケートを行うこととしていたところ、8月1日に糠平岳でツアー登山客の遭難があり、その際ツアー会社がゲートの鍵を市販の合鍵を使って開けたことが問題となったことから、特に、ゲートの鍵や林道・登山道の整備について入林者や住民の意向を把握・検討することとしました。

(2) 実行結果

林道ゲートについては、入林者や一般町民ともにこれまでのようにゲートを設置して一般車の通行を管理すべきという意見が多数を占め、ゲートの設置については一定の理解が得られていることが分りました。

一方、鍵の管理を適正にすべき等の厳しい意見や、手続き等の改良要望もありました。これらのうち、すぐにできることとして、「林道の通行状況が分かるようにしてほしい。」「電話だけでなくFAX、メール、HPを通じて鍵の申請の手続きができるようにしてほしい。」という意見も多くあったことから、林道入り口からの距離が分かるよう、主要な林道に標識を設置しました。また、HPの活用も検討しており、これらの取組により、登山者の利便性がさらに向上すると考えています。

3. 森林環境教育等イベントのPR

(1) 取組みの経過

昨年度は、新聞の折り込みチラシによるこれまでのやり方に加えて、これらの情報に接することの少ない子供、老人や町外の方などより多くの人々に情報が届くよう、「図書館」や「老人福祉センター」の外「沙流川温泉高原荘」や「道の駅」等に紙媒体による情報発信を行いました。今年度は、町民へのアンケートを実施し、より多くの人々に情報を提供できないか検討しました。

(2) 実行結果

アンケートの結果、行事があることを知らなかった住民が約4割いることが分かりました。このようなことから、さらに周知をすべく町の広報誌と一緒に平成22年度に行った森林教室や体験林業の情報を配布する取組を始めました。今後予定している地域発案システムなどの「イベント情報」についても同様に行う予定です。更に、より幅広く国有林のPRを図るため、新たに、近隣のJR占冠駅や旧門別町の保養施設など、多くの国民が集まる場所にも「日高森林管理署からのお知らせ」としてイベントや森林教室の情報を掲示しました。

4. おわりに

国有林の利用や、国有林を利用した森林教室等の行事について、さらに国民の利便性の向上や国民の参加を図るため、アンケート結果を活用して、引き続き国民目線にたった具体的な方策を工夫していきたいと考えています。